



家庭科の教員として 実践してみたこと Best3

勤務先の中学校は小さな学校なので教員の数が少なく、専門外の教科を教えるという事態も発生する。臨時免許の規定として専門の教科の持ち時数を超えて他の教科を教えるということはNGなので、時数の少ない実技系教科の先生はどうしても小さい学校には配置しにくいという事情があるためだ。今年は専門の理科以外に家庭科を教えている。

1. 裁縫ができるようになった [1年生 衣生活と消費生活]

いや、ほんの手習いレベルだけど。私は中学生の時に家庭科を習っていない世代なので、ほんとに何も知らなかったりする。今回基本的な手縫いを教えることになって、相棒さんに教えてもらった。難しかったのは「まつり縫い」だが、ほつれていたズボンを2本直してみても、ある程度の自信は付いた。できないことができるようになるというのは単純に嬉しいものだ。だが老眼&近眼の身に針仕事はしんどいとも感じた。

2. 調理実習 [2年生 食生活]

私は中学生の時に家庭科を習っていない世代(以下同文)なのだが、食べることは好きなので、調理はそれなりにやっているという自負はある。生徒たちに一人暮らしをしたときに多少は自炊できるような気持ちを持てるよう、簡単・時短、エネ短?な調理を教えようと思う。先日、第1回の調理実習として、パスタと玉子をゆでる実習を行った。パスタソースは、ガーリックバターやオリーブオイル、塩、こしょう、醤油、マヨネーズなど各自で工夫して和えることができるようにしたほか、私が作ったミートソースも選べるようにした。その日の給食がスパゲッティだったのはまったく偶然…。

3. パペット劇 [3年 保育]

1学期に座学で幼児の学習を行ったあと、実習として動物パペットを作った。インサイドな話を書くと、評価をする際に技能や工夫という観点があり、そのためには何か作品がないと公正な評価ができないという事情があるのだ。さて作ったあと、パペットで班ごとに幼児向けのパフォーマンスをするという課題を出した。全ての班が寸劇をすることになったので、2学期にコンテストを行い、優秀班を中心に文化祭で発表することになった。文化祭には近くの幼稚園児を招待していたので、園児の前に簡素なステージを置き、それをビデオで撮影したものをプロジェクターで映して他の観客にも見えるようにした。ステージの飾り付けやセッティング、ビデオ・背景画のPC操作などの裏方、園児の移動や着席への誘導、司会・ナレーターなど、3年生全員でパペット劇に取り組むことができ、達成感が得られた取り組みとなった。